

今回、地域実習という形で、新城市民病院での研修を行わせていただき大変貴重な経験ができた。3点ほど、レポートという形で記載させていただく。

まず1つ目は、外来フォローをさせていただいたことだ。普段、私が勤務している豊橋市民病院では、研修医の外来と言ったら、救急外来のみでフォローという概念がない。新城市民病院の総合内科外来では外来フォローという貴重な経験ができて、患者とのラポール形成や、他科への紹介のタイミングなど様々なことを学ぶことができた。そこで感じたのが、外来フォローで状態が良くなっていく患者の様子を拝見することができ、医師としての醍醐味を少しでも味わえたのではないかと感じた。

2つ目は、医学情報を収集するツール、方法などを学ぶことができたことである。医学は日進月歩で進歩していき、その情報を駆使しながら、患者に最適な医療を提供するのが医師の務めである。しかし多忙の中、必要な情報を早く正確に抽出するのは、実は非常に難しいと感じていた。今回、新城市民病院の研修では、論文の読み方、最新の情報を手に入れることができるツールを知ることができ、今後の医師人生のためになると確信している。

3つ目は、この新城市民病院という、愛知県の自治医科大学の拠点病院で研修できたということである。自治医科大学は、県内でも優秀な人材を集めて地域医療に貢献する日本でも特殊な大学である。そのような大学出身の先生方が多数勤務している新城市民病院では、適切な医学知識を利用している一方、患者に対して何が一番いいかを常に考える姿勢に感銘を受けた。これが地域に根差し、患者のための医療なのだと感じた。

以上、簡単ではあるが、本研修で私が感じたことを記載させていただいた。今後、外科系の道に進もうとしている私だが、将来的にはへき地医療をしたいと思い医師になったわけであるから、この新城市民病院での研修が少しでも生かせるように、今後も精進していきたい。